# 「兎出血病」流行についての弊社見解

# イースター株式会社

2020年10月5日公開2020年11月2日更新

現在、アメリカにおいて「兎出血病」が発生・流行し、国内でも昨年より発生が報告されています。 本件につきまして、弊社見解をお知らせいたします。

なお当文書につきましては、弊社の顧問獣医師である獣医学博士・霍野晋吉先生にご監修いただいております。

※本内容は 2020 年 10 月 30 日時点のものとなります。

※一部情報の出典については文章末に集約して記載しております。

# 1. 兎出血病について

## ●病気の概要

名称: 兎出血病 (Rabbit hemorrhagic disease) RHD とも呼ばれます。

(2020年7月に農林水産省により名称変更されており、変更前の名称は「兎ウイルス性出血病」です)

一般には「ウサギエボラ」等の通称で呼ばれることもあります。

ウサギに感染するウイルス性の伝染病であり、急性であること、致死率が高いことが特徴です。

数日の潜伏期間を経て、臨床症状を示してから多くの場合は数日中に死亡すると言われています。

【症状】元気消失、食欲不振、発熱、鼻・口・直腸からの出血等。無症状での突然死もある。

原因となる「兎出血病ウイルス(Rabbit hemorrhagic disease virus、RHDV)」は大きく「1型」と「2型」に分類され、今回問題となっているのは「2型(RHDV2)」です。2010年に初めてフランスで確認されました。今年に入ってアメリカ南西部で野生のウサギを含めた大規模な流行が起こり、日本国内でも発生が見られています。

「2型」については現状詳しくはわかっていませんが、判明している範囲内で、「1型」と「2型」には一部相違点もあります。

#### 【相違点の一例】

	1型	2型
感染するウサギの種類	アナウサギ属 <sup>※1・2・3</sup>	アナウサギ属、ノウサギ属等 <sup>※1・2・3</sup>
	(ノウサギ属は感染しない)	
発症する年齢	4~8週齢*3(6~8週齢との記載もあり	全年齢のウサギで発症 <sup>※1・2</sup>
	※1) 未満は不顕性感染	11 日齢のウサギの臨床症状確認例もあ
	それ以上の年齢で発症する	る <sup>※3</sup>

<sup>\*</sup>一般的にペットとして飼育されている種は「アナウサギ属」に含まれます。

感染源となるのは、感染したウサギと、その血液・糞尿・唾液等を含む全ての分泌物・排泄物です。

現在ウサギ以外の動物への感染は確認されていませんが、感染源に接触した昆虫や動物、人間等がウイルス を運んでしまう事があります。

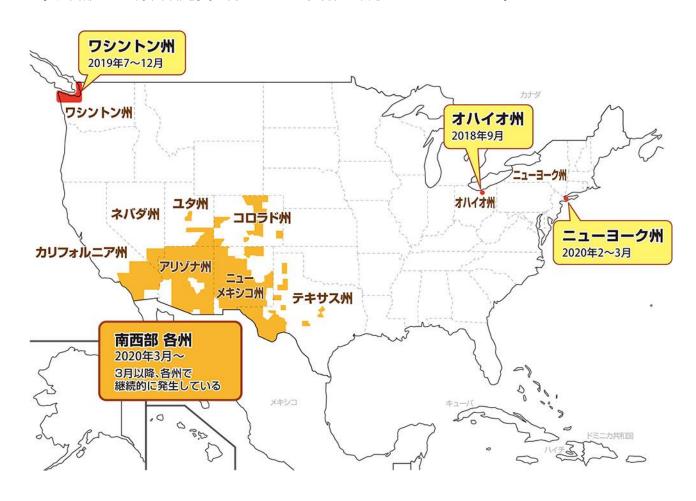
現在、有効な治療法はありません。海外ではワクチンの認可により接種可能な地域もありますが、日本やアメリカにおいては未認可であり使用はできません。

# 2. 現在の発生状況

### ●アメリカでの発生状況

アメリカでは 2018 年 9 月にオハイオ州で初めて「2 型」の発生が確認され、その後下記エリアでの発生が報告されています。

オハイオ州・ワシントン州・ニューヨーク州での発生については、下記期間以降の発生は確認されていません。南西部では3月以降継続的に発生しており、現在も終息していないようです。



出典)USDA(アメリカ合衆国農務省)、WSDA(ワシントン州農務省)
Interactive Map(USDA、随時更新)(2020 年 10 月 7 日付の情報を参考)
https://www.aphis.usda.gov/aphis/maps/animal-health/rhd

## ●国内での発生状況

「兎出血病」は家畜伝染病予防法において「届出伝染病」に指定されており、発生が確認された場合は農林水産省への届出が必要です。(ただし発生状況の発表において、「1型」「2型」の区別はされていません) 「2型」の発生が確認された 2010 年以降の「兎出血病」の発生報告は下記の通りです。



出典)農林水産省による「監視伝染病の発生状況」※現在「2020年8月」までの報告数が掲載されている。 https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/kansi\_densen/kansi\_densen.html

※2020年10月30日更新

農林水産省の情報更新に伴い、上図の情報源を農林水産省による「監視伝染病の発生状況」のみとしました。

# 3. 弊社製品に関して

## ●牧草製品

【対象商品】セレクションプロプラス プレミアムチモシー<一番刈り>800g

産地:アメリカ ワシントン州(キッティタス郡・グラント郡・アダムス郡・フランクリン郡)

当製品は、牧草の輸入から梱包までの製品化工程を一貫して牧草専門業者に委託しております。 「兎出血病」に関する委託業者の見解として、

- ・現在発生・流行しているのはカリフォルニア州などの南西部である
- ・使用しているアメリカ産牧草は、ワシントン州産である
- ・ワシントン州では、今年に入ってからの発生が確認されていない
- ・牧草生産地での発生がこれまで確認されていない

以上の事から、現在使用しているアメリカ産牧草にウイルスが付着している可能性は極めて低いと考えられる旨の回答を得ております。

ワシントン州では2019年7月~12月に「兎出血病」が発生していますが、それ以降は発生報告がありません。

発生エリアは地図に示した通りです。\*1.4

- ①San Juan Island (サンフアン島)
- ②Orcas Island (オーカス島)
- ③Whidbey Island (ホイッドビー島)
- ④Clallam (クララム・動物保護区内で発生) いずれも「島」「動物保護区内」という隔離されたエリアでの発生であり、また、牧草産地 とは距離が離れています。



## ●ドライフード製品

【対象商品】弊社取り扱いのウサギ用ドライフード全種

(動物村、プレミアムレシピ、セレクション、セレクションプロ、ベッツセレクション)

#### ウイルスの生存について

- 一般的に「ウイルス」の主な特徴として、下記2点が挙げられます。
- ①単独では増殖できず、他の生物の細胞に入り込んで増殖する。

入り込める生物(宿主)から離れると一定期間以上は生存できない。(生存期間はウイルスによって異なる)

②失活には消毒剤の使用等の他、加熱が有効手段となる。(耐熱温度・時間はウイルスによって異なる)

「兎出血病ウイルス2型」については現状「①生存期間」「②耐熱温度・時間」ともはっきりとは解明されておりませんが、参考情報として、「1型」については下記の報告があります。

- ・室温で保管された乾燥した布地で3ヶ月生存した※1・2
- ・50°Cの加熱で1時間生存した※1・3

以上のことから、「原料・製品の保管期間」「加熱工程」に着目し、弊社製品について調査を行いました。

## 原材料について

弊社ウサギ用ドライフードに使用している原材料には、輸入している原材料もございます。

調査の結果、アメリカから輸入している殆どの原料において、原料の栽培地や加工地の地域では「兎出血病」 の発生報告がありませんでした。(USDA 2020年10月7日時点での発生情報にて確認)

多くの天然原料において収穫時期は毎年同一の時期となっており、収穫してから加工等を経るまでにある程度の時間を要します。更に海上輸送されるものが多く、日本へ輸入されるまでにも数ヶ月以上の時間がかかります。

また、多くの原料は加工工程において加熱・乾燥等を経ております。

#### 加工工程について

弊社ウサギ用ドライフードは、犬・猫を対象とした「ペットフード安全法(愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律)」に則って製造しております。この法律に基づいて出された省令において「販売用愛玩動物用飼料を加熱し、又は乾燥する場合は、原材料等に由来して当該販売用愛玩動物用飼料中に存在し、かつ、発育し得る微生物を除去するのに十分な効力を有する方法で行うこと。※5」との記載があり、こちらを満たす方法でドライフードを製造しております。

具体的には、混合・粉砕した原料をエクストルーダーという加熱・加圧押出機により発泡・成型し、乾燥・ 冷却させて製品化しています。

一般的にエクストルーダーでは、加熱温度が 100℃以上になります<sup>\*6</sup>。その後の乾燥工程においても 100℃ 以上の高温の熱風を使用します。

上記より、原材料の安全性に加えて、製品化されたドライフードは「原料段階での加熱・一定期間の保管」 「ドライフード製造時の高温加熱」を経ており、ウイルスが生存している可能性は極めて低いと考えられます。

# 4. 自社工場・飼育場における取り組み

弊社ウサギ用ドライフードは全て、自社関西工場(兵庫県たつの市・本社に併設)で製造しております。 また、弊社は動物飼育場を兵庫県内に有しており、ウサギを含めた各種動物の飼育を行っております。 現在兵庫県内及び隣接府県での「兎出血病」の発生は報告されておりませんが、弊社では、工場等へのウイルス持ち込み防止目的を含めた衛生管理の徹底や、「兎出血病」に関する正しい知識を持つための社内啓蒙に取り組んでおります。

#### ●関西工場・本社棟内

- ・塩素系消毒剤による工場内事務所・休憩所等、本社棟の消毒
- ・「兎出血病」に関する掲示物の貼り出し、社内用マニュアルの作成
- ・工場では関係者以外の立ち入りを禁止

#### ●動物飼育場

「兎出血病」に限らず動物たちの健康を維持するため、感染性のウイルスや 細菌・寄生虫等を飼育場内に持ち込まない・持ち出さない為に、日常的に下記 の衛生管理を実施しています。

- ・踏込槽を建物内への入り口および各部屋の入口に設置し、足底を消毒 (産業動物の踏込槽でも使用されている、複合次亜塩素酸系消毒剤を使用)
- ・ケージは毎日複合次亜塩素酸系消毒剤とブラシ、流水を使用して内部を清掃
- ・使用している備品(食器皿等)は次亜塩素酸ナトリウムを使用して消毒洗浄
- ・排泄物は1つの専用の袋にまとめ、封をして最終的に2重袋になるようにして廃棄
- ・スタッフの手洗い、消毒の徹底
- ・関係者以外の立ち入りを禁止

ウサギは複数飼育しており、現在どの個体も健康状態に問題はありません。 飼育場では怪我等の予防も含め、ウサギ同士の接触がないように飼育しております。 また、動物病院の受診を除いてウサギを飼育場外に出すことはありません。

#### 【社内掲示物】



# 5. 飼い主の皆様へ

家族の一員であるウサギの健康にかかわる事柄として、感染症の状況にご不安をお持ちの飼い主様もいらっしゃるかと思います。

飼い主の皆様におかれましては、健康・衛生管理の一環として下記のことにご留意いただければと思います。

- ・手洗いの徹底。(水でウイルスを洗い流すのは効果があります)
- ・自宅のウサギ以外のウサギとの接触を控える。(動物展示施設、ふれあいコーナーのウサギや野生のウサギ等)
- ・うさんぽ等、ウサギを外に連れて行くのは控える。
- ・複数飼育の場合、食事や水を入れる食器等は1羽に1つ用意し、共有しない。
- ・消毒をする際は、アルコール消毒は効果が低い。食器やケージ等の消毒には塩素系消毒剤を使用する。
- ・食器やケージ等の洗浄。

現在、日本国内では過度に心配する状況にはありませんが、正しい知識や予防意識を持つことはウサギの健康の一助になると考えます。

「兎出血病ウイルス」にはまだ判明していない点も多く、また場合によっては、ウイルス自体が様々な条件で変異し特性等が変わることもあります。弊社では今後も「兎出血病」の状況を注視し、情報収集に努め、状況の変化に合わせて情報更新を続けてまいります。

今後とも皆様に安全な製品をお届けするため、対応に取り組んでまいります。

#### 【出典・参考】

- 1) World Organisation For Animal Health(OIE/国際獣疫事務局)
  - https://www.oie.int/
- 2) United States Department of Agriculture (USDA/アメリカ合衆国農務省)
  - https://www.aphis.usda.gov/aphis/home/
- 3) The Center for Food Security & Public Health (CFSPH)
  - http://www.cfsph.iastate.edu/
- 4) Washington State Department of Agriculture(WSDA/ワシントン州農務省)
  - https://agr.wa.gov/
- 5) 愛玩動物用飼料の成分規格等に関する省令(平成二十一年農林水産省・環境省令第一号) https://elaws.e-

gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws\_search/lsg0500/detail?lawId=421M60001200001

6) 参考:ペットフード公正取引協議会 https://pffta.org/seizo/seizo1-4.html